

伊予市じんけん教育

一人ひとりの人権が尊重される、
明るい伊予市をめざして



2019
No. 28

■編集・発行 伊予市教育委員会 愛媛県人権教育協議会伊予市支部
〒799-3113 伊予市米湊820番地
TEL.089-982-5155 FAX.089-982-5156



港南中2年 西岡 実美



下灘小5年 宮内 風緑



伊予中2年 谷岡 沙恵



今年度も人権啓発・人権意識の高揚を目的として、人権啓発作品を募集したところ、たくさんご応募いただき、誠にありがとうございました。応募数は、小学生二五一点、中学生八五五点、高校生七一点、成人二二〇点、総数四六三二点でした。最優秀、優秀に輝き入賞された皆様おめでとうございます。

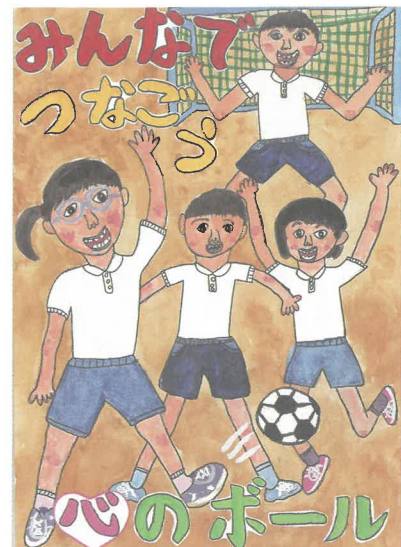
伊予市人権啓発作品(最優秀)の紹介



中山中2年 奥岡 優佳



中山小6年 窪中 彩望



中山小4年 沖野 莉香

人権詩 最優秀作品

だいじょうぶだよ

北山崎小学校 四年 田井 愛華

だいじょうぶだよ 一人じゃないよ
はげましあって 勇気になる
だいじょうぶだよ いじめられたって
はげましあって 強くなる
ずっといっしょ 守ってあげる
ありがとう うれしい気持ち
そして 永遠のきずなが 生まれる
かなしいことは 分けあって
うれしいことも 分けあって
うれしいことは 百倍に
かなしいことは 一になる
だいじょうぶだよ
みんな 友だち



本当のやさしさ

伊予小学校 五年 橋村 舞

本当のやさしさって むずかしい
友達を遊びにさそったり

勉強のやり方を教えたりするのは
やさしさ

だけど

いじめを手伝ったり

問題の答えを教えたりするのは

やさしさじゃないよね

人をきずつけないために
まず

自分が言われたら どう思うか

自分がされたら どう思うか

それを考えてから行動する

それが大事だと

私は 思うんだ

みんなが思いやって

この世から

いじめを無くそう

違い

郡中小学校 六年 大内 智葉



人は 一人一人違うところがある

顔も 声も 性格も、考え方も人それぞれ

だから けんかすることもある

分かり合えないこともある

でも それぞれ違うことで

一人じゃないことができる

みんな同じじゃないから

一人一人の良いところが輝く

違うからこそおもしろい

みんな同じだとつまらない

「違い」は大切

「違う」ことも大切

みんなと違っていい

わたしはもう 人に惑わされない

パズル

伊予中学校 三年 池内 優葉

私たちは

誰一人として

同じじゃない

世界でたった一つの

「ピース」

みんな同じだと

ぶつかることはない

だけど

ぴったり合うこともない

でこぼこでもいい

みんなが

わたしの

あなたの

「ピース」を

大切にできたらいいな





いろんな花を見つけない

南山崎小学校 四年 福本 峻

人には、人それぞれの花があります。花といっても、植物の花ではなくて、すてきなところがあるという意味です。例えば、Aさんは歌がうまくて、Bさんは字がきれいで勉強ができて、Cさんは力もち……というような。そして、そんな花がぼくにもあったらいいのにな、いつも心の中で思っていました。

ある日の道徳の時間。そんなぼくと同じなやみをもっている人が話の中に出てきました。その人は、自分の短所を見つけることができても、長所を見つけることができません。その人は、そのことをお母さんに話しました。すると、お母さんは、「見つからなければ、つくればいいでしょ。」と言いました。その人は、友達にさそわれて、マラソンの練習を始めました。最初はしんどかったけど、毎日走っているうちにだんだんなれてきて、マラソンに自信がもてるようになりました。自分のいいところが見つかったのです。

この授業の後で、ぼくは、「ぼくも勉強をがんばってみようかな。」と思いました。最

初はつらくても、字がきれいになったり、文章問題がとくいになったりするかもしれないからです。

それから、ぼくは、家での自主学習もがんばりました。テストの点数も、少しよくなってきました。ぼくにも、「勉強をがんばれる花」が見つかりました。他にも考えてみたら、ぼくは、二年生の夏休みから日記を書くことを続けています。ねむくて書きたくないと思う日もあるけど、毎日続けています。だから、「日記を続けられること」も、ぼくの花の一つだと思いました。

そう思ってた友達のことを見てみると、花をもっていない人はいないんじゃないかと思えてきました。ぼくは、自分の花をもっとふやしたいです。でも、それだけじゃなくて、みんなの花、友達のいろんな花も見つけられる人になりたいと思っています。いや、ぼくだけじゃなく、みんなが、まわりの人のいろんな花を見つけられるようになったらいいです。



だれもが笑顔に

北山崎小学校 五年 都田 葵生

「そんなことをしたら、こまる人がいるのに。いいのかな。」と少しびつくりしました。それは、わたしが買い物に行った時、しょうがい者やにんぷさんが止める「思いやりちゅう車場」にそれ以外の人が止めているのを見たからです。わたしは、平気で止めるなんて信じられなかったです。そのわけは、わたしの家族や周りの人達が、止めているのを見たことがなかったからです。止めた人は、店に近いから便利だと思って止めただけかもしれない。でも、本当に使いたいしょうがい者やにんぷさんが来たときに、「思いやりちゅう車場」が使えません。店からはなれた所に車を止めなければいけないのです。車を止めた人は、こんなこと分かっているのでしょうか。注意は、なかなかできないけど、わたしも家族も、「思いやりちゅう車場」には、決して車を止めないようにしたいです。

それから、わたしは、他のしょうがい者やにんぷさんが便利に安心して生活できるようにする工夫には、どんなものがあるかと思つてさがしてみました。すると、トイレには、点字や手すり、赤ちゃんをすわらせるいすがついていました。また、町なかには、点字ブロック、音が鳴る信号機やさまざまなふくしまークを見かけました。しょうがい者やにんぷさんが、安心して生活してもらえるように、

いろいろな物がせつびされているのは、とてもいいことだと思います。まず、みんながそのことをよく知っておくことが大切だと思います。そして、わたしたちは、ルールをきちんと守っていきます。

また、わたしの家の近所に、七月六日に八十七才になったおばあちゃんが一人で住んでいます。ゴミを捨てる日に台車で重たそうに、「ゴミを捨てに行っているのを見て、手伝ってあげたらいいのかなと思って、家族に聞いてみると、「声をかけたり、手伝ったりするのはよいことだけど、一人で出来ることは体にもよいことだから。」と言うことでした。でも、家族は、「何か困ったことがあったら、いつでも声をかけてね。じしんや大雨がふつてひなんしないといけない時は、必ずいっしょにひなんするからね。」と言っているそうです。それを聞いて、おばあちゃんは、安心していたそうです。さらに、おばあちゃんの家には、「つめこ」という犬がいます。なので、ひなんする時には犬の「うめこ」も守ろうと思います。

しょうがい者やにんぶさん、高れい者の人達みんなが、楽しく安心して生活できるように、どうすればいいのでしょうか。一つは、物理的なせつやせつびをつくることと、そのしせつやせつびが何のためのものかを、みんなが知っておくことです。一番必要なのは相手の立場になり、相手のことを思いやることです。全員がその思いをもち、だれもが安心して楽しく生活できるようにしたいです。

言葉の大切さ

翠小学校 六年 山本 幸哉

ぼくは給食を食べるのが遅い。自分なりに一生けん命食べているつもりだが、チャイムが鳴っても食べ終わらないことが多い。苦手なものがメニューに入っていると、どよんとした気持ちになる。でも、いやな気持ちになる理由は、それだけではない。チャイムが鳴ってもまだ食べているとき、学校の友達がたまに

「ゆっきー、遅いね。」

と、言ってくることがある。実際に遅いのはわかっているけれど、できれば「遅いね」ではなく、「がんばれ」と言ってほしい。

学校で生活しているとき、母とスーパーで買い物をしているとき、周りの人が悪口を言っているのを聞くことがある。ぼくに関係のない悪口でも、それを聞くと心がどよんとする。言われた人でなくても、ただ聞かされるだけでいやな気持ちになるんだなと思った。

ぼくは、翠小学校の児童会メンバーだ。伊予市では、いじめストップ会議を毎年行っていて、ぼくも夏休みに参加した。翠小学校の取組は、「言葉の大切さ」だ。ぼくが給食のときに言われた「遅いね」という言葉や、周りの人が言っている「ばか」や「きもい」といった言葉は、人を傷つける。傷つけられた人は、しくしく泣いてしまうことから、これらの言

葉を「しくしく言葉」と名付けた。また、あだ名も「しくしく言葉」に入れた。言われてうれしいあだ名と、そうでないあだ名がある。あだ名は慎重に使ってほしいと思う。

ぼくは、「ありがとう」という言葉が好きだ。落とした鉛筆を拾ったとき、困っている友達に声をかけたとき、母の手伝いをしたとき、「ありがとう」という言葉が返ってくる。そんなとき、心があたたかくなる。「ありがとう」には、たくさんの力があるのだと思う。「ありがとう」だけでなく、「ごめんね」や「がんばっているね」も同じように人を元気にする力があると思う。

翠小学校では、これらの言葉を、人をキラキラときらめかせるというこで、「キラキラ言葉」と名付けた。「キラキラ言葉」が学校にあふれてほしかったので、ポスターを作って全学級に貼ってもらった。早く「キラキラ言葉」が増えていったらいいなと思う。

人を傷つけることも、喜ばせることもある言葉。言葉にはまほうの力があると思う。まずは自分から「キラキラ言葉」を使って、周りのみんなを明るくしたい。そして、「キラキラ言葉」の輪が、できるだけたくさん広がって、みんなが笑顔になったらうれしいと思う。

ガンバって!!



差別のない社会に

中山中学校 三年 北岡 妃華里

差別。それは、あつてはならないもの。中学二年の冬、私は二人のすばらしい方と出会い、生きていく上で大事なことを学ぶことができた。

昨年、私は中学に入つて初めて「ハンセン病」について学んだ。感染の確率は限りなく低く、治る病気であるのに、患者は差別されてきたことを学んだ。その時の私は、「こんな病気にかかつてかわいそう」という気持ちしかなかった。

その数か月後、私は、伊予市主催のハンセン病患者が強制隔離された療養所「大島青松園」訪問に参加した。そこでは、ひどい差別に苦しんできた五十七人の入所者の方々が生活していた。昔はもっと多かったという。私は、船でしか島に来ることができなかったこの場所に何年も隔離され、苦しんできた方たちのことを思うと、胸が苦しくなった。深く考えていなかった自分が許せなくなつた。きつと、私が思っている以上に辛い思い、苦しい思いをされてきたであろう。そう強く思った。

(5) この訪問で一番心を動かされたのは、入所者である本田さんと松本さんが、差別の経験や今までの思いを語ってくれたことだ。学校では学べなかつた貴重な話をたくさん聞かせてくださった。「奴隷のように扱わ

れ、地獄のような暮らしだった。」「入り口だけで、出口がない場所に連れてこられた感じだった。」予想だにしていなかつた苦しみ、私は一言も言葉が出なかつた。そんな私たちに、本田さんと松本さんは、最後にこうおっしゃった。

「わたしたちは、辛いことがあつてもそれを持ち越えて一生懸命生きています。だから、君たちも自分に負けず、強い気持ちで生き延びてほしい。」

その言葉は、私の心を大きく変えた。私は、少し辛いことがあると、「もうだめだ。」と諦めたり、自信が持てずにネガティブになつてしまつたりすることがよくある。それではだめなんだと気付くことができた。私も本田さんや松本さんのように、今を大切に、どんなに辛くて逃げ出しそうになつても、自分に負けず一生懸命生きたい。私は、何度も何度も心の中でつぶやいた。

私たちがしなくてはならないことは、「ハンセン病を始め、さまざまな差別について学び、たくさんの人に伝え、差別のない社会を実現すること」だ。戦争がないという点では平和な現代の日本でも、いろいろな差別で苦しんでいる人はまだまだたくさんいる。差別をするのが人間なら、差別を解消するのも人間しかない。もう二度と、本田さんや松本さんのような思いをする人をつくつてはいけない。私は、差別に苦しむ人に手を差しのべられる人になりたい。そういう人が増えていけば、差別は必ずなくなると私は信じている。



ぼくがここに みんなもここに

南山崎小 一年 中川 圭一

あつまれば ひろがるふかまる なかまのきずな

下灘小 二年 津田 乃々馨

一人じゃない なかまがいるよ すぐそばに

郡中小 三年 村上 大唯志

ありのまま ちがいてもぜんぶ それでいい

郡中小 四年 須賀 万里愛

あなたは友達を笑顔にしてくれますか？

伊予小 五年 田中 結夏

気にしない もってる色は 違つから

郡中小 六年 白石 好恵

変わろうよ 見ているだけの 自分から

双海中 一年 山下 美幸

大丈夫 君の隣に 僕がいる

港南中 二年 長田 鼓吾郎

見つけよう 認め合おう 一人一人の素敵な個性

中山中 三年 北岡 妃華里

わかりあい わかちあい 差別ゼロ!!

伊予農高 一年 安田 康太郎

守るから 弱音をはいて いいんだよ

大平地区 鎌田 美幸

